

厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
（生活習慣病重症化予防のための戦略研究））
分担研究報告書

『自治体における生活習慣病重症化予防のための受療行動促進モデルによる
保健指導プログラムの効果検証に関する研究』
- 受療行動促進モデルによる保健指導プログラムの標準化 -
研究分担者 横山 徹爾 国立保健医療科学院生涯健康研究部 部長

研究要旨

介入地域における保健指導の標準化および質の向上を図り、本戦略研究の精度を高めるために、介入地域の保健師、事務職員並びにリーダー職員に対して、研修会を行うとともに、各地域への個別サポートと定期的なプログラムモニタリングを実施する。初年度は、参加が決定した自治体が研究を開始するに当たって必要なデータの授受や契約に関する「合同説明会」と、受療行動促進モデルによる保健指導を一定の質で行えるようになるための「保健指導実務研修会」を開催した。また、「保健指導実務研修会」の内容を介入自治体の全ての保健指導実務者に伝えるための伝達研修会用に、ビデオ等の教材を作成した。今後、介入サポートチームによる個別支援やプログラムモニタリングの結果報告書等を基に、プログラム（保健指導や体制等）の標準化および質の担保が図られているかどうか、説明が適切であったかについて評価し、フィードバックすることにより、プログラムの標準化および質の向上を図っていく。

A．研究目的

本戦略研究において保健指導プログラムの効果を検証するためには、対象者の抽出から保健指導等の予防介入を実行する方法を明確にしたうえで、すべての介入自治体において研究計画書および手順書に記載された内容を一定以上の質で実施されるように標準化を図る必要がある。本分担研究では、介入自治体における保健指導プログラムの遂行およびデータ収集から固定までの管理、受療行動促進モデルによる保健指導の標準化および質の向上を図り、本研究の精度を高めるために必要な、予防介入プログラムの標準化手法を検討する。

B．研究対象と方法

「自治体における生活習慣病重症化予防のための受療行動促進モデルによる保健指導プログラムの効果検証」の各種手順書をもとに、全ての介入自治体において実施される保

健指導プログラムを標準化するために、参加自治体職員が身につける必要のある事項を整理し、具体的な標準化の方法と内容について検討し、研修会を通じて自治体職員のトレーニングを行う。

C．研究結果

【1】標準化の概要

介入地域の保健師、事務職員並びにリーダー職員に対して、研修会を行うとともに、各地域への個別サポート（事例検討会等）と定期的なプログラムモニタリングを実施し、プログラムモニタリングの結果報告書等を基に、プログラム（保健指導や体制等）の標準化および質の担保が図られているかどうか、説明が適切であったかについて評価する。そして、その後の研修会等に改善点を反映させることにより、プログラムの標準化および質の向上を図る。

【2】研修会

<介入自治体>

どの介入自治体においても研究計画書および手順書に記載された内容が均質に実施されるように、中央において開催する集合研修によって予防介入プログラムの標準化を行った。

介入自治体の担当者への研修会の方法と内容を定めるにあたっては、一般目標（G10: General Instructive Objectives, 研修会修了時に期待される成果）、到達目標（SBOs: Specific Behavioral Objectives, 一般目標を達成したことを示すための具体的、各論的に観察可能な行動）を設定し、具体的な研修項目を整理した。また、プログラム全体の遂行スケジュールをふまえて、実施時期と回数を設定した（表1）。

初年度は、参加が決定した自治体が研究を開始するに当たって必要なデータの授受や契約に関する（1）「合同説明会」と、受療行動促進モデルによる保健指導を一定の質で行えるようになるための（2）「保健指導実務研修会」を開催した。

（1）合同説明会

合同説明会の一般目標は、「介入地域における保健指導プログラムの遂行およびデータ管理ができる」ことであり、到達目標は、以下の2項目とした。

- 1) 研究の意義や介入地域の役割を理解し説明することができる
- 2) 保健指導プログラムの遂行およびデータ管理(収集・回収・提出)ができる

これらを達成するために参考資料1に示した内容の説明会を平成26年2月24日に東京で開催した。参加者は、1つの市から事務職員1名、保健指導実務担当の保健師1～2名(そのうち保健師1名は本研究担当のリーダー的立場の方)である。

（2）保健指導実務研修会

保健指導実務研修会は、1つの市から保健

指導実務担当の保健師2～3名が参加する中央研修会と、各市において中央研修会と同じ内容を全ての保健指導実務者が参加する伝達研修会とからなる。

中央研修会

保健指導実務研修会の一般目標は、「介入地域における保健指導プログラムを、本研究で求められる標準化された質と手順で実施できる」ことであり、到達目標は以下の6項目とした。

- 1) 本戦略研究の意義、目的、成果等について理解し、研究に参加する心構えを養い、これらを他のスタッフにも伝えることができる。
- 2) ヘルス・ビリーフ・モデルを基礎とした受療行動促進モデルの理論的枠組みを活用して、保健指導計画を立案することができる。
- 3) 本戦略研究における研修やモニタリングの仕組み及び介入内容の標準化について理解したうえで、保健指導の質の向上に取り組むことが出来る。
- 4) 健診結果が示している身体状態を適切に理解し、健診結果経年表・構造図を活用した保健指導を実施することができる。
- 5) 管理台帳を活用し、すべての対象者を継続的にかつ効率的に支援できる。
- 6) 上記1)から5)について、他のスタッフに復命することができる。

これらを達成するために参考資料3に示した内容の研修会を、平成26年2月17～18日に東京で開催した。参加者は、1つの市から保健指導実務担当の保健師2～3名(そのうち1名は本研究担当のリーダー的立場の方)である。

研修会に参加したことによって、一般目標と到達目標を達成できたか、研修の事前と事後に評価アンケートを行った。内容は、一般目標と6つの到達目標のそれぞれについて、知識・技術のレベルを、「1.十分にできる」「2.概ねできる」「3.少しはできる」「4.

できない」の4段階で尋ねるものである。また、各講義の個別アンケートとして「内容の理解の程度」「講師の教え方」「講義等の資料のわかりやすさ」「プログラムの必要性」「時間配分」についても4段階で尋ね、参加者の理解度を把握して追加で必要なサポートを検討するとともに、研修会の質を確保するための参考とした。

研修会の内容について十分に理解できない点がある場合は、研修会の間に質疑応答時間をとったほか、質問用紙に記入して提出してもらい、当日中に解説または後日Q & A集として回答し、他の介入自治体とも共有した。また、プログラム遂行上、必要と思われる要望事項を質問用紙または前述の評価アンケートに記載してもらった。

伝達研修会

介入自治体において、中央研修会を修了していない保健指導実務者も、修了者と同様に受療行動促進モデルに基づいた保健指導を行えるようになるために、中央研修会の講義をビデオ撮影し、同じ教材を用いて各自治体で全ての保健指導実務者に対して研修会を開催することとした。

一般目標と到達目標は、中央研修会と同じ（到達目標6を除く）であり、内容は参考資料4に示した通り、中央研修会とほぼ同じである。各市において、本戦略研究に参加する全ての保健指導実務者は講義のビデオと配付資料を用いて受講する。研修室等での集合研修が望ましいが、通常業務をこなしながら伝達研修会を受講できるように、各自での自習も可とした。

中央研修会と同様に、到達度を評価するために、事前・事後評価アンケートおよび各講義の個別アンケートを記入して、研修受講後に戦略研究推進室あてに送付し、各市における伝達研修の実施状況の確認、および介入サポートチームが各市をサポートする際に参考にする。

< 対照自治体 >

対照自治体においても、介入自治体と同様の質でデータ管理（収集・回収・提出）ができるようになるために、合同説明会を開催する。

一般目標は、「対照地域の役割を理解しデータ管理ができる」ことであり、到達目標は、以下の2項目とした。

1) 研究の意義や対照地域の役割を理解し説明することができる

2) データ管理(収集・回収・提出)ができる

これらを達成するために参考資料2に示した内容の説明会を平成26年3月17日に東京で開催した。参加者は、1つの市からデータ収集・管理および契約に関する担当者と保健指導実務担当の保健師、計2～3名である。

【3】個別サポート

介入自治体において、保健指導プログラムを一定の質で確実に遂行できるように、介入サポートチームが保健指導プログラムの実施支援等を行う。

【4】プログラムモニタリング

介入自治体について、保健指導プログラムの標準化が達成しているかを確認するため、プログラムのモニタリングを実施する。プログラムモニタリングチームにより保健指導記録の帳票等の確認を行うことにより、モニタリングを実施する。詳細は、別途定めるモニタリング手順書に基づき、モニタリングを実施する。また、モニタリング結果は、個別および研修会を通じて介入自治体全体にフィードバックし、プログラムの質の維持向上に役立てる。

【5】標準化の評価

研修会参加中・終了時の課題、プログラムモニタリングチームによるモニタリングの結果およびその他資料（モニタリング結果報告書、保健指導記録のコピー等）を基に、保

健指導の標準化および質の向上が図られているかどうか、研修会の内容が適切であったかについて評価する。評価結果を、研修会における介入地域へのフィードバック、次年度の研修会に反映させることにより、さらなる標準化を図る。

D．考察

本戦略研究では、多数の地域において予防介入プログラムを実施するため、介入プログラムの実行状況の管理（標準化）を適切に行う必要がある。その介入内容は薬物等の臨床試験で特定の疾患患者に定められた量を投与する場合とは異なり、対象者の検査値のみならず生活状況等の背景をもふまえた保健指導およびそのための体制整備等の多岐に渡るため、保健指導実務者の研修会には十分な回数と時間を割く必要がある。

初年度の研修会では、保健師、事務職員並びにリーダー職員の役割を明確にしたうえで、一般目標、到達目標を立て、個別の研修項目を整理した。保健指導実務研修会（中央研修会）の評価アンケートでは、知識・技術レベルの変化（自己評価の変化）について、事前と事後構成比は全ての目標項目で「概ねできる」の割合が高くなり、「到達目標2, 3, 4」の事後評価「できない」は0人となった。伝達研修の実施に関する不安意見があったため、「事例検討、演習」は、必要に応じて介入サポートチームの構成員が各市を訪問して実施を支援することとした。

次年度以降も必要な研修会を開催し、研究遂行に求められる標準的な知識と技術を身につけるとともに、個別サポートとプログラムモニタリングによって実行状況を把握・評価しながら、研修等により改善を促していくことにより、どの参加自治体においても一定水準の介入プログラムが遂行されるようになると思われる。

E．結論

介入地域における保健指導の標準化および質の向上を図り、本研究の精度を高めるために、介入地域の保健師、事務職員並びにリーダー職員に対して、研修会を行うとともに、各地域への個別サポート（事例検討会等）と定期的なプログラムモニタリングを実施する。初年度は、参加が決定した自治体が研究を開始するに当たって必要なデータの授受や契約に関する「合同説明会」と、受療行動促進モデルによる保健指導を一定の質で行えるようになるための「保健指導実務研修会」を開催した。今後、介入サポートチームによる個別支援やプログラムモニタリングの結果報告書等を基に、プログラム（保健指導や体制等）の標準化および質の担保が図られているかどうか、説明が適切であったかについて評価し、フィードバックすることにより、プログラムの標準化および質の向上を図る。

F．健康危険情報

なし

G．研究発表

1．論文発表

なし

2．学会発表

なし

H．知的財産権の出願・登録状況

なし

I．研究協力者

杉田由加里 千葉大学大学院看護学研究科
准教授

(参考資料1)

研修会番号	研修会名	時間数	
A (介入)	介入地域への合同説明会	約3時間	

一般目標 (General Instructional Objectives: GIO)

介入自治体における保健指導プログラムの遂行およびデータ管理ができる。

到達目標 (Specific Behavioral Objectives: SBOs)

- 1) 研究の意義や介入地域の役割を理解し説明することができる
- 2) 保健指導プログラムの遂行およびデータ管理(収集・回収・提出)ができる

内容

番号	時間数	内容
1	35分	1. 研究概要と研究の意義
		本研究の目的や概要、評価項目、介入地域の役割等、本研究の基本的な事項を知る。
2	30分	2. 健診・レセプトデータの流れ
		健診データおよびレセプトデータの入手先およびファイル仕様、およびそれらのデータが解析されるまでの流れについて知る。
3	30分	3. 保健指導記録関係データの流れ
		構造図・管理者台帳等の印刷から、当該帳票データが解析されるまでの流れについて知る。
4	30分	4. 戦略研究推進室の役割と契約について
		戦略研究推進室の役割と介入自治体と国立大学法人大阪大学との契約方法について知る。
5	40分	4. 戦略研究推進室の役割と契約について
		戦略研究推進室の役割と介入自治体と国立大学法人大阪大学との契約方法について知る。

(参考資料2)

研修会番号	研修会名	時間数	
A (対照)	対照地域への合同説明会	約3時間	

一般目標 (General Instructional Objectives: GIO)

対照地域の役割を理解しデータ管理ができる。

到達目標 (Specific Behavioral Objectives: SBOs)

- 1) 研究の意義や対照地域の役割を理解し説明することができる
- 2) データ管理(収集・回収・提出)ができる

内容

番号	時間数	内容
1	35分	1. 研究概要と研究の意義
		本研究の目的や概要、評価項目、対照地域の役割等、本研究の基本的な事項を知る。
2	50分	2. 重症化ハイリスク者のデータ管理方法
		重症化ハイリスク者のデータ管理方法について。
3	30分	3. 契約について
		対照自治体と国立大学法人大阪大学との今回の研究についての契約について。
4	30分	4. 総合質疑応答
		症化ハイリスク者のデータ管理方法、契約等について確認し、疑問点を解決する。

(参考資料3)

研修会番号	研修会名	時間数	評価方法
BC	保健指導実務研修会	約13時間	事前事後アンケート

一般目標 (General Instructional Objectives: GIO)

介入地域における保健指導プログラムを、本研究で求められる標準化された質と手順で実施できる。

到達目標 (Specific Behavioral Objectives: SBOs)

- 1) 本戦略研究の意義、目的、成果等について理解し、研究に参加する心構えを養い、これらを他のスタッフにも伝えることができる。
- 2) ヘルス・ビリーフ・モデルを基礎とした受療行動促進モデルの理論的枠組みを活用して、保健指導計画を立案することができる。
- 3) 本戦略研究における研修やモニタリングの仕組み及び介入内容の標準化について理解したうえで、保健指導の質の向上に取り組むことが出来る。
- 4) 健診結果が示している身体状態を適切に理解し、健診結果経年表・構造図を活用した保健指導を実施することができる。
- 5) 管理台帳を活用し、すべての対象者を継続的に効率的に支援できる。
- 6) 上記1)から5)について、他のスタッフに復命することができる。

内容

番号	時間数	内容
1	30分	開講の挨拶・趣旨説明
		開講挨拶、研究の趣旨・目的等を理解し、研究参加における心構えを養う。相談窓口(戦略研究推進室)を理解する。
2	30分	保健指導プログラムの基本的な考え方
		本研究における保健指導プログラムの概要、全体的な流れ、介入必須条件、保健指導の各ステップや内容(初回指導、継続指導)について理解する。
3	80分	保健指導プログラムの理論的枠組み概要
		本戦略研究の保健指導プログラムの理論的基礎であるヘルス・ビリーフ・モデルとそれに基づく受療行動促進モデルについて理解するとともに、保健指導のアセスメントと教育介入の枠組みを理解する。
4	130分	保健指導の実施方法
		受療行動促進モデルに基づいて健診結果経年表と構造図を活用した具体的な保健指導の展開(高血圧、糖尿病、脂質異常症、蛋白尿)を学ぶ。管理台帳の記入方法及び管理台帳を活用した保健指導計画の立案について学ぶ。
5	30分	質疑応答
		重症化ハイリスク者に対する受療行動促進モデルについてのイメージ化、構造図を使った保健指導の展開イメージ等について確認し、疑問点を解決する。
6	20分	研修会について
		本戦略研究における研修会の全体計画について、その趣旨や仕組み等について知る。
7	30分	モニタリングについて
		本戦略研究におけるモニタリングについて、その趣旨や仕組みについて知る。
8	30分	医療との連携について
		重症化ハイリスク基準の各学会ガイドライン上での位置づけ等を知る。医療機関との連携で考慮すべき点を理解するとともに、連携を円滑に進めるためのツールや方策を学ぶ。
9	90分	事例検討、演習 保健指導計画の立案及び保健指導展開例の提示
		事例をもとに具体的な身体状態等の読み解き、保健指導計画の立案を各自及びグループで演習を行う。その後、講師が基本的な読み解き、保健指導計画について解説する。
10	240分	事例1～3
		事例について講師が健診結果経年表・構造図を用いて保健指導の展開例を示し、受講者同士で議論する。この過程を通じて具体的な保健指導展開を学ぶ。
11	20分	事例検討のまとめ
		事例検討を通じて、展開が困難であった点について確認する。
12	30分	伝達研修について
		研修内容を他のスタッフにをどのように復命・伝達するか知る。

(参考資料4)

研修会番号	研修会名	時間数	評価方法
BC (伝達)	保健指導実務研修会(伝達研修会)	約12時間	事前事後アンケート

一般目標 (General Instructional Objectives: GIO)

介入地域における保健指導プログラムを、本研究で求められる標準化された質と手順で実施できる。

到達目標 (Specific Behavioral Objectives: SBOs)

- 1) 本戦略研究の意義、目的、成果等について理解し、研究に参加する心構えを養い、これらを他のスタッフにも伝えることができる。
- 2) ヘルス・ビリーフ・モデルを基礎とした受療行動促進モデルの理論的枠組みを活用して、保健指導計画を立案することができる。
- 3) 本戦略研究における研修やモニタリングの仕組み及び介入内容の標準化について理解したうえで、保健指導の質の向上に取り組むことができる。
- 4) 健診結果が示している身体状態を適切に理解し、健診結果経年表・構造図を活用した保健指導を実施することができる。
- 5) 管理台帳を活用し、すべての対象者を継続的に効率的に支援できる。

内容

番号	時間数	内容
1	20分	全体の趣旨説明および教材の使用方法
		伝達研修会の趣旨説明と進め方、および教材の使用方法について知る。
2	30分	開講の挨拶・趣旨説明
		開講挨拶、研究の趣旨・目的等を理解し、研究参加における心構えを養う。相談窓口(戦略研究推進室)を理解する。
3	30分	保健指導プログラムの基本的な考え方
		本研究における保健指導プログラムの概要、全体的な流れ、介入必須条件、保健指導の各ステップや内容(初回指導、継続指導)について理解する。
4	80分	保健指導プログラムの理論的枠組み概要
		本戦略研究の保健指導プログラムの理論的な基礎であるヘルス・ビリーフ・モデルとそれに基づく受療行動促進モデルについて理解するとともに、保健指導のアセスメントと教育介入の枠組みを理解する。
5	130分	保健指導の実施方法
		受療行動促進モデルに基づいて健診結果経年表と構造図を活用した具体的な保健指導の展開(高血圧、糖尿病、脂質異常症、蛋白尿)を学ぶ。管理台帳の記入方法及び管理台帳を活用した保健指導計画の立案について学ぶ。
6	30分	モニタリングについて
		本戦略研究におけるモニタリングについて、その趣旨や仕組みについて知る。
7	30分	医療との連携について
		重症化ハイリスク基準の各学会ガイドライン上での位置づけ等を知る。医療機関との連携で考慮すべき点を理解するとともに、連携を円滑に進めるためのツールや方策を学ぶ。
8	330分	事例検討、演習 保健指導計画の立案及び保健指導展開例の提示
		事例をもとに具体的な身体状態等の読み解き、保健指導計画の立案を各自及びグループで演習を行う。その後、講師が基本的な読み解き、保健指導計画について解説する。事例について講師が健診結果経年表・構造図を用いて保健指導の展開例を示し、受講者同士で議論する。この過程を通じて具体的な保健指導展開を学ぶ。
9	20分	研修会について
		本戦略研究における研修会の全体計画について、その趣旨や仕組み等について知る。
10	30分	伝達研修について
		研修内容を他のスタッフにをどのように復命・伝達するか知る。